

第6版 改訂にあたって

今回の第6版の改訂は、2000年1月の初版の発行以来の大幅な改訂となりました。その改訂の主な要因は言うまでもなく、私ども関係者一同が待ちに待った新病棟の新築開院によるものです。また、もう一つの要因は、検査法の進歩や臨床検査技師諸君の努力によって、新検査項目の開始や遺伝子検査などの充実によるものです。従って、今回の本ガイドブックの変更点は、

- 1) 一般検査の開始(検尿)
- 2) 入院患者採血管準備システムの導入
- 3) 報告書の廃止
- 4) 生理検査データの電子化・オンライン化
- 5) 細胞マーカー、遺伝子、骨髓検査依頼・報告書のオンライン化
- 6) 血清項目の一部追加
- 7) 外注検査画像報告書のオンライン化

などとなりました。本院の臨床検査に関わられるすべての方が改訂された本ガイドブックを有効に活用して頂きたいと思います。

今、当然と思われがちである「医療は安全である」という保証が崩れ去ろうとしています。言い換えれば、安全性を確保することの困難性に皆が気づき始めたと言ってもいいかもしれません。臨床検査も医療の根拠・安全性の根拠となる判断の evidence を提供しています。従って、正しい検査の確保は、医療の安全性の基本ともなっています。

本趣旨をおくみ頂き、本改訂版を大いに利用していただけることを検査部一同心から期待しております。

2011年3月

長崎大学病院検査部

部長 上平 憲